

# 地区図書館の歴史

## 【小名浜図書館】

「いわき市立小名浜図書館」の前身となったのは、昭和 23 (1948) 年 9 月 1 日に開館した「小名浜町立図書館」です。開館時の蔵書数は 500 冊で、そのほとんどが町民からの寄贈によるものでした。貸出は行わず、1 日 5 円の閲覧料を徴収していました。

その後、小名浜町蛭川新川間に小名浜公民館が完成したことから、昭和 27 (1952) 年 4 月 1 日、「小名浜町立小名浜公民館図書室」となりました。図書室と書庫は、公民館の 2 階にありました。

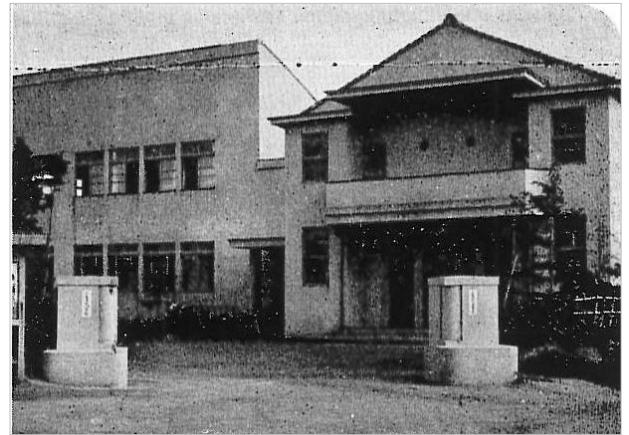
同じ頃、泉町公民館図書室でも、巡回文庫の設置や、蔵書数が 3,000 冊を超えるなど活発な活動を見せていました。

昭和 29 (1954) 年 3 月 31 日、磐城市が発足し「磐城市立小名浜公民館図書室」に名称を変更します。

図書館まで来て本を読む時間のない漁船乗組員に対して貸出移動文庫を設置するなど、港町小名浜らしいユニークな取組も行っていました。(新聞『磐城日日』昭和 30 年 11 月 9 日付)

昭和 41 (1966) 年 10 月 1 日、いわき市が発足し「いわき市立小名浜公民館図書室」に名称変更します。また、昭和 42 (1967) 年 7 月 6 日には、「いわき市立磐城図書館」へ名称変更し、「磐城体育センター」(現 小名浜公民館) の 2 階へ移転しました。

昭和 55 (1980) 年 7 月 1 日には、「いわき市立小名浜図書館」へ名称変更し、現在に至ります。



昭和 27 年に完成した、小名浜公民館(『磐城市勢要覧 昭和 29 年版』)



昭和 40 年頃の小名浜公民館図書室 館内(『磐城 1965』)



小名浜銀座通り(昭和 20 年代 小名浜観光協会)



いわき市立小名浜公民館。  
昭和 42 年 7 月に磐城体育センターとして開設したが、昭和 53 年 4 月に廃止となり、小名浜公民館として全館使用となる。市民プールは体育センターの名残である。(昭和 56 年 10 月 いわき市撮影)

## 【勿来図書館】

勿来地区には、大正 14 (1925) 年 1 月 7 日に錦尋常小学校内に開館した「錦図書館」(大正 15 年 2 月に県知事の認可を受け、いわき地方最初の公立図書館とされている)や、昭和 25 (1950) 年 5 月に植田町役場の応接室に設置された図書室、昭和 27 (1952) 年 8 月に開館した「勿来町公民館図書室」がありました。

しかし、現在の「いわき市立勿来図書館」の前身となるのは、昭和 47 (1972) 年 4 月 1 日に勿来支所 2 階に開館した「勿来図書館」です。

当時市内には平、常磐、内郷、磐城の 4 図書館があり、いずれも旧市時代から引き継がれたものでした。しかし、旧勿来市には図書館がなく、昭和 41 (1966) 年 10 月のいわき市発足以来、勿来地区だけ図書館がない状況でした。そのため、地区住民からの強い要望もあり、勿来支所 2 階の元議長室と議会委員会室を改装し、図書館としたのです。図書購入予算は 75 万円(当時)で、県立図書館の貸出文庫を活用するなどして蔵書を揃えました。

6 年後の昭和 53 (1978) 年 4 月 1 日、新館建設中だった植田公民館が開館したことに伴い、同公民館 3 階へ移転し、現在に至ります。



いわき市立植田公民館。

昭和 24 年に植田町公民館として開設したが、旧植田町役場庁舎を使用していたため老朽化が激しく、昭和 53 年に新築された。(昭和 56 年 10 月 いわき市撮影)



植田町役場庁舎を使用していた、旧植田公民館(昭和 49 年 11 月 いわき市撮影)

**勿来支所に図書館**

**1 日開館へ準備急ぐ**

地区民待望の勿来図書館が四月一日から新築なつた勿来支所二階で開館する。いわき市内の図書館は平、常磐、内郷、磐城の四方所で、いずれも旧市時代から引き継いだ図書館だが、旧勿来市にはなかったもの。

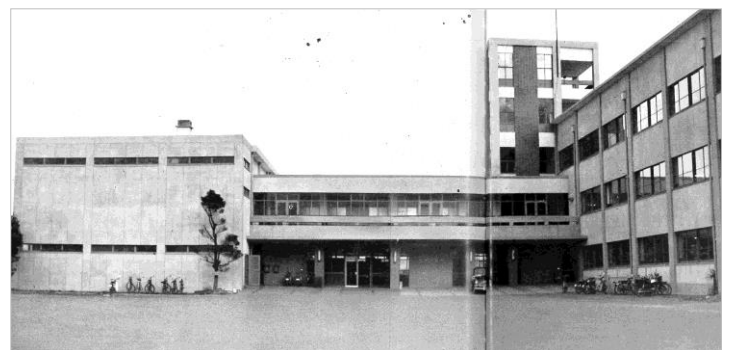
合併五年、勿来地区だけ図書館のないのは不公平と、書を求める地区民がたびたび市に陳情して実現させた。

新設の勿来図書館は二階の元議長室と議会委員会室の百四平方メートルを改装、委員会室の方を事務所と書庫に、議長室の方を図書室としてイス、テーブル五十人分を設けた。

開館の蔵書は、七十五万冊の予算で年内に一冊の新書を購入するが、取りうる全県立図書館からは千五百冊を借りるほか、植田公民館へ蔵書も応援、二千五百冊程度でスタートしたい計画。

なお開館時は土曜日は午後五時まで時間を延長、市民の読書熱にしたためる。

『いわき民報』(昭和 47 年 3 月 30 日付)



勿来市役所(現 勿来支所)。昭和 47 年 4 月、2 階の元議長室と議会委員会室を改装し、勿来図書館とした。(『なこそ 勿来市勢要覧 昭和 39 年版』)

## 【常磐図書館】

いわき市合併以前の図書館で、最も活発な図書館活動を見せていたのが、「いわき市立常磐図書館」の前身である「湯本町公民館図書室」です。

湯本町公民館図書室は、昭和 26 (1951) 年 8 月 1 日、湯本町公民館内に開館しました。同年 4 月に落成した湯本町公民館は、総工費 1,200 万円 (当時)、建坪 310 坪、総二階建てで、2,000 人収容可能な公会堂を有するなど、県内でも有数の規模を誇る公民館でした。図書室も 2,000 冊収蔵可能で、閲覧席は 100 名収容できるほどでした。

開館当初は、館外貸出を行っていませんでしたが、昭和 27 (1952) 年 2 月に、①貸出証による無料貸出、②貸出期間は 8 日間、③延滞料を 1 日 2 円とすることを決定します。蔵書は年々増加し、図書室が手狭になってきたこともあり、昭和 28 (1953) 年頃から独立図書館運動が活発になりました。

当時の常磐地区は、常磐炭礦株式会社をはじめ、中小の炭鉱が林立しており、炭鉱で働く人々とその家族が多く住んでいました。「炭鉱のまち」の図書館らしく、炭鉱技術や電気関係の図書を充実させ、夜間開館を実施するなど、炭鉱で働く人々が多く利用していました。

昭和 29 (1954) 年 3 月 31 日、常磐市が発足し「常磐市立湯本公民館図書室」に名称変更、昭和 41 (1966) 年 10 月 1 日には、いわき市が発足し「いわき市立常磐公民館図書室」に名称変更しました。

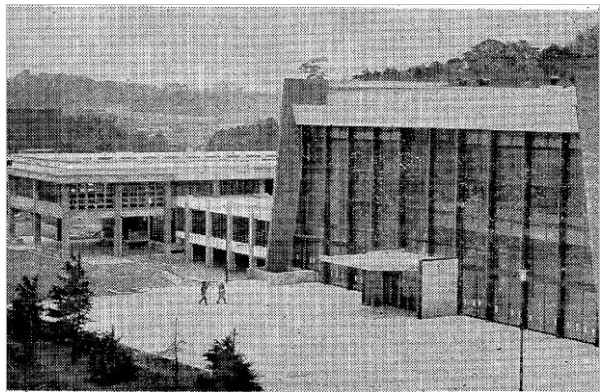
常磐地区では、旧市時代の昭和 40 (1965) 年 5 月から「常磐総合文化センター」(現 常磐市民会館)の建設が始まり、昭和 42 (1967) 年 3 月に完成しました。常磐公民館図書室も同文化センターの 2 階へ移転し、同年 4 月「いわき市立常磐図書館」へ名称変更、現在に至ります。



湯本町公民館(『湯本町勢要覧 昭和 28 年度』)



湯本町公民館図書室 館内(『湯本町勢要覧 昭和 28 年度』)



常磐市民会館(『いわき民報』昭和 43 年 2 月 8 日付)



常磐図書館 館内(昭和 46 年 2 月 いわき市撮影)

## 【内郷図書館】

「いわき市立内郷図書館」の前身となったのは、昭和24(1949)年11月19日に内郷町役場の元会議室を改装し開館した、「内郷町立図書館」です。開館当初は、蔵書数が少ないため館外貸出は行っておらず、館外貸出を行うようになったのは昭和28(1953)年9月からで、14歳以上に限定しての貸出でした。

昭和29(1954)年7月10日、内郷市が発足し「内郷市立図書館」に名称変更します。

昭和34(1959)年11月、内郷公会堂が完成し、翌35(1960)年2月に公会堂2階に移転します。当時の蔵書数は、約7,000冊でした。

昭和41(1966)年10月1日には、いわき市が発足し「いわき市立内郷図書館」に名称変更します。

昭和48(1973)年3月、いわき市役所新市庁舎(平字梅本21番地)が完成したことから、内郷支所の一部機能が平へ移転し、支所の空いたスペースに図書館を充てることになりました。同年7月3日、内郷支所3階に移転したことで、内郷駅からも近くなり、公会堂時代に比べると面積も1.7倍広がったことから市民に好評でした。

その後、昭和55(1980)年4月、建設中だった内郷公民館が完成したため同公民館1階に移転し、現在に至ります。



内郷公会堂。現在の内郷コミュニティセンターの場所にあった。(『内郷町勢要覧 昭和41年度』)



内郷公会堂2階に移転した内郷市立図書館(『内郷町勢要覧 昭和41年度』)



昭和40年11月に完成した内郷市役所庁舎(現内郷支所)。昭和48年7月、この3階に内郷図書館が移転した。(昭和42年1月いわき市撮影)



昭和55年4月、内郷公民館1階に内郷図書館が移転した。(昭和55年3月いわき市撮影)

『磐城新聞』  
(昭和24年11月15日付)

内郷町では六十萬圓を投じ  
今夏七月來元役場會議室を  
町立圖書館に改造中のこと  
この程完成、常備圖書も  
町民の寄附で三千冊を超え  
たので來る十九日開館する  
ことになった、平屋建三十  
七坪のものである

内郷町立図書館  
19日開館・元役場會議室に



内郷町役場の元会議室を改装し開館した、内郷町立図書館(『内郷町勢要覧 昭和27年度』)

## 【四倉図書館】

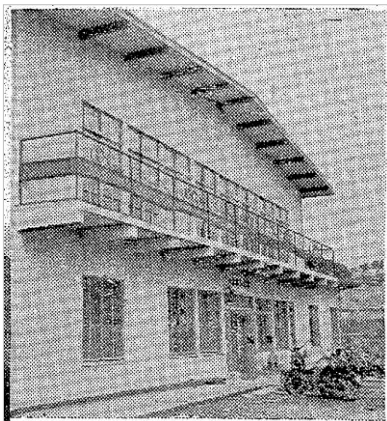
「いわき市立四倉図書館」の前身となったのは、昭和 26（1951）年 3 月 25 日に発足した「四倉公民館図書室」です。

当時、四倉公民館は四倉町役場内にありました。その後、昭和 32（1957）年頃には、四倉町字地引 1 にあった四倉町商工会内に移転します。

昭和 39（1964）年 3 月、四倉町西四丁目 5 に四倉町商工会館が建設されたことから、四倉公民館も同会館に移転しました。しかし、1 年ごとに賃借契約を結んで四倉商工会館の一部を借りている状態であったため、昭和 43（1968）年頃には独立公民館の建設を求める声が高まりました。昭和 46（1971）4 月、独立公民館として現在の四倉公民館が完成し、図書部も公民館内で活動します。

昭和 50 年代には、平、小名浜、勿来、常磐、内郷地区にはすでに市立図書館が設置されていました。しかし、四倉地区は依然として公民館図書室であったことから、地区住民より図書館設置を求める声が高まり、献本運動が広がりました。また、昭和 54（1979）年 12 月のいわき市社会教育委員の会議では、四倉方部への図書館新設が提言されました。

昭和 57（1982）年夏頃より、四倉公民館敷地内に図書館建設が始まり、昭和 58（1983）年 3 月に完成。同年 4 月 1 日、四倉公民館図書部を廃止し、「いわき市立四倉図書館」として 5 月 6 日に開館しました。公民館図書部時代と比べると、面積が約 5 倍となりました。



昭和 39 年 3 月に完成した四倉町商工会館。同会館内に四倉公民館が移転した。（『いわき民報』昭和 39 年 3 月 5 日付）



昭和 46 年 4 月に完成した四倉公民館。図書室は、昭和 58 年 3 月に四倉図書館が完成するまで、公民館の一室で活動していた。（昭和 46 年 4 月 いわき市撮影）



四倉公民館図書室 館内  
（『いわき民報』昭和 51 年 10 月 2 日付）



四倉図書館建設風景（昭和 58 年 3 月 いわき市撮影）



完成した四倉図書館（昭和 58 年 4 月 いわき市撮影）

# 移動図書館の歴史

昭和 41 (1966) 年 10 月、いわき市が発足し、当時としては日本一の面積を有する市が誕生しました。そのため、図書館サービスも広大な市域をカバーする必要が生じ、登場したのが移動図書館です。

現在、いわき市立図書館には、市北部を巡回する「いわき号」と、市南部を巡回する「しおかぜ」の 2 台の移動図書館が運行しています。ステーション数は 119 ヶ所あり (平成 29 年 4 月現在)、月 1 回巡回し、図書館が遠方で足を運ぶことが難しい利用者に本を届けています。

## 「あづま号」から「いわき号」へ

いわき市に初めて登場した移動図書館は、昭和 43 (1968) 年 6 月に福島県立図書館から払い下げとなった「あづま号」(日産 E690 改造 60 年式 積載図書冊数 3,000 冊) でした。当時市内にあった図書館は、平、内郷、常磐、磐城の 4 図書館で、あづま号は、これらの図書館から持ち寄った本 3,200 冊を、公民館を中心に巡回、貸出を行いました。

しかし、県からの払い下げ時には走行距離が既に 8 万キロを超えていたため、昭和 47 (1972) 年 8 月に初代「いわき号」(日産 キャブオール VC240 改造 積載図書冊数 600 冊) を購入し、平図書館に配車しました。当時の大和田弥一市長が「いわき号」と命名した移動図書館は、ブルーとクリーム色のツートンカラーで、山間部の狭い道でも走行できるよう、小回りの利くマイクロバスを図書館用に改造したものでした。

移動図書館の貸出は、当初、団体貸出のみでしたが、同年 9 月、玉川団地をモデル地区として個人貸出をスタートします。これが好評だったことから、翌年の昭和 48 (1973) 年 7 月には 11 ヶ所に増やし、主婦を中心に多く利用されました。



初代いわき号【運行期間 昭和 47 年～昭和 53 年】  
(昭和 50 年 5 月 いわき市撮影)



2代目いわき号 寄贈式【運行期間 昭和 53 年～昭和 63 年】  
(昭和 53 年 10 月 いわき市撮影)



4代目いわき号【運行期間 平成 9 年～平成 25 年】  
(平成 10 年 1 月 いわき市撮影)



5代目いわき号【運行期間 平成 25 年～現在】  
(平成 25 年 12 月 いわき総合図書館撮影)

昭和 53 (1978) 年 10 月、2 代目「いわき号」(トヨタ コースター改造 積載図書冊数 2,400 冊)を、日本中央競馬会競走馬総合研究所の一部寄付を受け購入しました。この時、初代「いわき号」は、須賀川市へ譲渡されました。

昭和 63 (1988) 年 11 月には、3 代目「いわき号」(車種不明 積載図書冊数 2,700 冊)を購入。

平成 9 (1997) 年 12 月には、4 代目「いわき号」(三菱 キャンター 3.5 tトラック改造 積載図書冊数 3,000 冊)を購入します。車体は黄、青、緑の鮮やかな配色で、市の鳥かもめのイメージキャラクター「ミュウ」や塩屋埼灯台が描かれていました。

平成 25 (2013) 年 11 月には、5 代目「いわき号」(三菱ふそう キャンター 4 tトラック改造 積載図書冊数 3,000 冊)を購入。グリーンとクリーム色の車体には、いわき市立図書館キャラクター「かもまる」が描かれ、子どもたちに親しまれています。

### 「しおかぜ」の配車

昭和 47 年 8 月の初代「いわき号」の導入以降、ステーションの増加や積極的な広報活動もあり、利用者は順調に増加しました。昭和 54 (1979) 年 12 月のいわき市社会教育委員の会議では、市の広域性を考慮し移動図書館車の増車が望ましいとされ、昭和 56 (1981) 年 10 月、市の南部を巡回する初代「しおかぜ」(日産 シビリアン GC341 改造 積載図書冊数不明)が、勿来図書館に配車されました。

平成 4 (1992) 年 9 月には、2 代目「しおかぜ」(日産 シビリアン TD42 改造 積載図書冊数不明)を購入。

平成 22 (2010) 年 10 月、3 代目「しおかぜ」(三菱ふそう キャンター 4 tトラック改造 積載図書冊数 3,000 冊)を購入。海をイメージした水色の車体に、市の鳥かもめのイメージキャラクター「ミュウ」が描かれています。



初代しおかぜ【運行期間 昭和 56 年～平成 4 年】  
(昭和 56 年 9 月 いわき市撮影)



2 代目しおかぜ【運行期間 平成 4 年～平成 22 年】  
(平成 22 年 9 月 いわき総合図書館撮影)



3 代目しおかぜ【運行期間 平成 22 年～現在】  
(平成 22 年 10 月 いわき総合図書館撮影)